

地域産業の振興対策の拡充

【担当省庁】経済産業省

奈良県における取組



令和7年度の皮革産業振興対策事業費補助金について、宇陀市菟田野毛皮革産業振興協議会に対し456万円を内示いただき、奈良県の皮革関連産業の振興を図ることができ感謝。

これまでの主な取組

本県の地場産業のひとつである皮革関連産業は、小規模事業者が大半を占め、経営基盤は脆弱であり、国際競争力も乏しい。貿易自由化の進展の中で、産地の競争力強化の取組に対して、次のような支援を実施。

《令和6年度取組状況》

①新商品開発支援（製品や梱包箱のデザイン、ロゴマークデザイン等に対する支援）

【履物】A: 着物向け和風サンダルのデザイン開発、B: 「雪駄」のデザイン開発、C: 「ならはきもの」ロゴマークのデザイン、D: サンダルの「梱包箱」の統一デザイン



②販路開拓支援（県内外での見本市や展示即売会の開催に対する支援）



履物見本市開催事業（5月、10月、1月開催）や御所市産業振興センター展示即売会（11月開催）、毛皮革フェアinうたの開催事業（11月開催）等を実施

③普及啓発

【県営競輪場における県産品PR】

・「第17回ならはきもの杯」をR6年12月に開催。各種媒体での産地PRと、競輪場内で奈良県産履物の良さを紹介するとともに、商品キャンペーンを行い、奈良県産履物の良さをPRした。



【県立図書館にて履物デザイン展を開催】

・R7年4月22日～5月6日まで、同館エントランスホールで履物デザインコンテスト入賞作品や、サンダル履物産業の紹介パネルの展示、紹介映像を放映。



現状

本県皮革関連産業の近年の経営環境は、個人消費の長期低迷や需要の変化、安価な海外製品の流入、経営者や職人の高齢化などにより、厳しい経営を強いられている。加えて円安による原材料費やエネルギー価格・運送費の高騰、賃上げに伴う人件費の上昇などによる原価上昇分の価格転嫁の交渉に苦慮しており、更に厳しい景況にある。

業界ではSNSの活用やオリジナルブランドの展開、大型展示会への出展、若手職人の人材育成に取り組んでおり、またインバウンド客の増加により、土産物店で浮世絵柄の草履等の引き合いが増えたことから、外国人に好まれるデザイン開発や、大柄な外国人向けのサイズを取り揃える等に取り組んでおり、県も支援を続けている。

皮革関連企業の経営基盤の強化と産地の活性化を図るため、そして、速やかな業績回復につながるよう、より一層の支援が必要である。

奈良県における皮革関連産業の状況

業種		令和2年	令和3年	令和4年	対R2年
スポーツ用品	事業所数	7	7	7	▲0.0%
	従業者数	70	66	53	▲24.3%
	出荷額(百万円)	1,808	524	660	▲63.5%
毛皮革・セーム皮	事業所数	8	8	8	▲0.0%
	従業者数	136	107	71	▲47.8%
	出荷額(百万円)	949	326	313	▲67.0%
サンダル及び軽装履	事業所数	4	4	4	▲0.0%
	従業者数	86	80	61	▲29.1%
	出荷額(百万円)	357	405	418	17.1%

（令和6年度全国皮革行政連絡会担当者会議の奈良県資料より抜粋）

国にお願いすること

- ① 貿易自由化の流れの中で国際競争力を維持し、地域ブランド力を強化できるよう、**新商品開発、販路拡大などにかかる財政支援（皮革産業振興対策事業費補助金等）の継続・拡充**をお願いしたい。
- ② 一般消費者に対する産地や皮革関連製品のPRなど、**事業継続に向けた振興策の一層の充実**をお願いしたい。

【県担当部局】 産業部経営支援課